仙台司教区 教区事務所だより

（第 29 号）
昭和55年3月1日

一九八〇年の仙台司教区の展望

―司祭・司牧評定例会3月に開催―

「教区における神の民の生活と活動が福音に合致し、神の民全員が活きたキリストの証人となり得るように、教区長と共に教区の司祭・修道者・信徒が一体となって、司牧・宣教全般に関する事柄を検討し、それらについての実際的な結論を出すこと」が司牧評議会の目的である。（同評議会規則第2条）

一九八〇年の新年度に入るに当たり、仙台司教区では、司牧評議会及び司祭評議会定例会が三月中に行われる予定である。この会は目的にあるように、私達の教区を私達の手で作り上げていくため各分野の代表者が集まり、この八〇年に、仙台教区で最も考えなければならない事柄について討議する。すでに議題は次のようにきまっているので、この議題について、意見、提案などがあったら、小教区司祭・各評議員を通して伝達し、討議に反映させることができる。

信徒の一人一人が教区の一つ一つの事柄に何らかの形でかかわっていこうとする開かれた心を、神が整えて下さるよう、そして我々の代表者が、これらの会議に聖霊に照らされて参加し、よりよい決断ができるよう、共に祈りたい。

なお、二つの会議は次の日程で行われる。

＊司祭評議会
日時　昭和55年3月10日(月)
　　午前10時半～午後4時
場所　元寺小路教会・信徒館
議題
一、仙台司教区における今後の展望について
二、カテケジスの方法について
三、教区レベルにおける昭和55年度の司牧的年間目標の内容について

＊司牧評議会
日時　昭和55年3月20日(木)
　　午後1時～5時
場所　元寺小路教会・信徒館
議題
一、聖書に基づいた家庭における子供の信仰教育について
二、今後、司祭不在の小教区（司祭が常住しない小教区）がでてくるようになると思われるが、それにどう対応していくか。その対策について。

浦和司教に島本要師被選

教皇ヨハネ・パウロ二世は、1月5日付をもって長江恵浦和司教の引退を認め、後任に横浜教区の島本要神父が任命された。

叙階式は3月20日に行われる予定である。隣接教区の慶祝を祈りをもって共にしよう。

司教様の日程

3月8日　教区内修道会責任者集会
10日　司祭評議会
13日　社会福祉法人理事会
20日　司牧評議会。浦和被選司教祝聖式
21日　仙台教区カテキスタ会役員会
23日　仙台司教区一粒会役員会
24日　邦人司祭月例会

仙台教区
カテキスタ研修会

仙台教区カテキスタ会（会長・阿部輝雄氏）の研修会は、1月14日～16日まで、福島・飯坂温泉で開かれた。テーマは「典礼土着化の研究」。講師は仙台教区の今野神父で、教区内カテキスタ17名他佐藤司教はじめ、宣教師8名が参加した。今野師からは、典礼に日本的なものを取り入れる事が、かならずしも土着化ではなく、本物の日本の精神を理解した上で選択する必要があるとの助言があった。

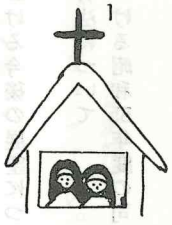
更に司祭の老齢化、召命に伴う司牧者の不足があげられ、カテキスタ、信徒、修道者が司祭に代わって何ができるかという具体的な問題が話し合われ、それに関する統一的見解を司牧評議会に提案し、はっきりさせることになった。

青森県
カトリック幼教職員黙想会

1月9・10日の両日、浪打教会、及び幼稚園において、県内19園一三二名の教職員が集まり、金井久師（東京教区）の指導の下に黙想会が行われた。

「保育者自らの人間性」をテーマに実例を交えてのわかりやすいお話で、参加者は、日頃の生活を反省しながら、熱心に聞き入った。各園との交流の場もあり、有意義な2日間であった。（なみうちだより2月号より）

聖母訪問会シスター
角田教会に！



このたび、宮城県南に位置する角田教会と幼稚園に、聖母訪問会シスター2名が本部から派遣されることになった。

既にこの1月14日からシスターベアトリス吉田幸、シスターニコラ岡井益美とが着任し幼稚園と教会の司牧宣教を助けるため活動を開始している。修道院を創設するのではなく、教会常住という形をとっている。

訪問会シスターの仙台教区への派遣は、佐藤司教の同意を得て、亘理の教会主任と幼児園長をも兼任している高田徳明師の要望に応えて実現したものである。隔週にしかミサのない角田教会ではあるが、ミサのない日曜にも御言葉の種々の活動が期待できそうである。

幸運の人　大谷　かおりさん
～復活祭に教皇様から受洗～

ヨハネ・パウロ二世は、意表をつく出来事を作っては、人々を喜ばせている感がある。

その一つとして、今年の復活祭に世界各国から2名ずつ洗礼志願者をバチカンに招待して、自ら洗礼式を司式される。

この栄えある一人に一本杉教会（仙台）の大谷かおりさんが選ばれた。他の一人は山形県の女性である。大谷さんは、聖ウルスラ学院高等学校一年生で、お母様はすでにカトリック信者で、高校に入ったら受洗しようと親子で話し合っていた。聖ウルスラ学院入学後一本杉教会でフォーレ師の指導の下に洗礼準備をしていたが、教皇様が洗礼を授けられることを聞いたフォーレ師は9名の受洗予定者の中から可能性のある2名を推薦したところ、見事、大谷さんがその一人に選ばれたもの。出発日程は未定だが、宿泊はローマの聖ウルスラ会修道院に交渉中で、お母様が経済的事情から同行できないのは、母一人子一人の大谷さん親子にとって、真に残念なことである。

十　ロベール・ヴァレー師　急逝

弘前大清水ホームと大清水学園の園長であったケベック外国宣教会のロベール・ヴァレー師（54歳）が、1月30日午前0時50分急性胃大腸炎のため死去された。葬儀ミサ・告別式は、弘前教会で2月1日佐藤司教主式のもとにケベック外国宣教会と藤聖母園の法人合同葬として行われた。

ヴァレー師は昭和29年カナダ・ラバール大学社会学部、社会福祉学科卒業後同年9月、宣教師として来日。以来十和田、弘前教会主任を歴任。その後、精神薄弱児通園施設大清水学園、及び特別養護老人ホームの大清水ホームを兼任。昭和54年には永年の幼児教育と児童・老人福祉の功績で、弘前市長から表彰されている。同師の突然の死を惜しむ声が、内外共に多い。

「マザー・テレサとその世界」
―盛岡で上映―

すでに数回盛岡で上映された「マザー・テレサとその世界」がチャリティー映画と講演という形で1月30日盛岡市岩手県民会館で、午後三時と六時半の二回に行われた（主催―岩手カトリックセンター。後援―盛岡市教育委員会・NHK盛岡放送局・岩手日報・テレビ岩手・岩手放送）。観客は昼の部220、夜の部500、計720名。

当日募金一二四八四三円はカリタスジャパンを通じてマザー・テレサの援助資金として送られた。映画の感想を未信者の一主婦は、次のようにのべている。

「自分に早速できる事といえば、むずかしい姑さんに喜んで仕えることだと思った」。

ノーベル賞授賞により一躍ジャーナリズムの注目を浴びたマザー・テレサの救済運動も、顧みられない日々の小さな奉仕の積み重ねである事を思えば、映画を見て「よし、今日から姑さんに心から喜んで仕えよう」と考えたB子さんの決心は、観念的に世界平和運動を提唱するより、はるかに堅実で足が地についている。見る者にこのような心の転機を促すところにマザー・テレサの持つ力がある。それは見捨てられた小さな一人一人の中に創り主を見いだす喜びから奔流する力で、見る者をして単なる傍観者たらしめないものと言えよう。（盛岡・四ツ家教会より）

学窓を巣立つ人々へ

「お金が無くては……」

今泉ヒナ子

Sは、二十数年前の私の教え子である。いなか訛りまる出しの、大がらで素朴な学生だった。見事な筆跡ではあるが、宗教の答案にしばしばとんちんかんなことを書いていたので、忘れがたい人であった。

そのSが、先日、本当に久しぶりに訪ねて来た。善良ないいオバチャンになっており、相も変わらぬ会津弁であった。

いろいろ、今までの苦労話をしてくれたが、その中で、Sはこんなことを言った。

結婚してまもなく、苦しい体験を重ねて行くうちに、体の具合が悪くなった。あちこちの病院に行ってみたが、心因性のものだというだけで、らちが明かない。悩んでいると、近所の人が見かねて、ある宗教に誘ってくれた。これで治るならありがたいと思い、行って拝んでもらった。すると、二、三日して、〃神様〃から巨額の支払いの請求が来た。その時、Sは、

「お金が無くては治せねえような神様は本当の神様ではねえわい。」

と言って、きっぱりとことわったと言う。しばらくして、Sの病気は治った。

―この話を聞いた私は、深く心を打たれた。

あの、宗教のリボートがいつも見当外れだったSが、こんなに大切なことをわかっていてくれた。こんなに勇気を持っていてくれた。

Sは、カトリック教育は受けたが、信者ではない。通常なら、病気を治してもらいたい一心で、お金を積んでしまうのが人間の弱さであろう。自分の病気が治らない可能性をうけいれて、なお「お金が無くては治せねえような神様」を退けるだけの判断力と決断力。これこそ、聖書にある、小さい者に神みずからが与えて下さる「知恵」というものではないだろうか。すなおで誠実そのもののSは、それを主からさずかったのであった。

「お金が無くては治せねえような神様」は新興宗教だけに限らない。物質主義、利己心、名誉心、支配欲など、いろいろな形をとってわれわれの周囲をぶんぶん飛び回っている。それらに迷わされずに、「本当の神様」とその義を求めて（マタイ六の三二）歩むためには、学問・教養に支えられた判断力とともに、主みずからがさずけてくださる「知恵」に心を開いて生きる勇気が必須であろう。

ことしもまもなく、多くの若い人たちが学窓を巣立って行く。かれらが、Sがいただいたような「知恵」に満たされて成長して行くよう願う。

（筆者は、コングレガシオン・ド・ノートルダム修道女）

学校教会めぐり（9）

福島・野田町教会
青森・本町教会

●福島・野田町カトリック教会

当教会では丁度十年前から、幼稚園の卒園児を対象に、「カトリック英語教室」と称して、小学一年より六年までの英語と道徳のクラスを設けています。毎週土曜日、各学年毎の英語（四〇分。月謝あり）と、1～3年、4～6年、二クラスの道徳（三〇分）があり約九〇名が出席しています。英語は三名の女性講師、道徳はカテキスタが担当しています。

毎年一度、クリスマスの近くに発表会を催し、全員の父兄を招待しています。

信者のこども達のためには、月二回、第一と第三土曜日は小学生（約二〇名）、第二と第四土曜日は中学生（約一〇名）の要理教育があり、小学生はカテキスタが、中学生は、主任司祭が指導しています。時間は大体一時間、ビデオやスライド、カードなどの視聴覚教材も利用しています。

初聖体は、普通小学二年生になって受けますが、一年間の準備のあと、夏休み中の一週間程を、祈りや黙想にあてて、直接の準備をします。訓練会のない年には、こども達のピクニックや、近いところで一泊旅行などを試みました。

小1から小6までの混合クラスであることや、カテキスタがいつも駆け足で、充分な準備のないことが最大の悩みでしたが、今年の四月からは、信徒二名の応援を得て、小学生の部を1～2年、3～4年、5～6年の三クラスに分け、毎週一時間を要理教育にあてる事が出来そうです。この際、小学六年間の教案を、みんなで考えながら作ってみたいと思っています。

日曜日のミサ後、三〇分位でもいい、子供会をもち、交流を広げたいというのが、かねてよりの願いですが、人手不足のため、現在はまだ実現されておりません。

（カテキスタ・中川）

●青森・本町カトリック教会

小1～3　―　毎日曜日。ミサの始まりから奉献のところまで。

小4～6　―　第二、第四日曜日。ミサ後約四五分間。

中1～3　―　右に同じ。

目標　―　一、キリストについて知ること。

一、聖書を自分の手で開ける。

一、信仰が自分の生活になる。

子供のほとんどは信者。しかし、キリストについて余り知っていない。聖書を自分で開くこともない。なんとかしなければと思い立ったのが六年前。

キリストはどんな人か。どんな人柄なのか。何をし、何を話し、どんな生き方をしたのか。彼の喜びは、彼の悲しみ、彼の希望はどんなことだったのか。

これを長い時間をかけてじっくりと感じて分かってもらいたい。そしてキリストの人柄が子供の心に直接働いていることを子供自身が悟ったらいいな―。そうすれば子供はきっとキリストに似た考え方をし、キリストに似た生き方をするようになるだろう。

こんな願いをこめてスタッフは働いている。

詩　マザー・テレサの手

聖ウルスラ　小四　菅井　なおみ

しわくちゃの手
でもマザー・テレサの手は
ただのしわくちゃじゃない
とってもあったかくて
とってもやさしくて
大ぜいのまずしい人に
さしのべた手
これからも
その手で
多くの人を
たすけてあげてください
マザー・テレサの手
そして
マザー・テレサ、ごくろうさま
いつまでもお元気で

紙上テレフォンサービス

教会維持について（上）

「私達は、教会維持費や献金を毎月出していますが、何に使うんですか？」

「燃料費も出すんですか？ ミサにはほとんど出ないんだから出さなくともいいんじゃない」などという声が耳に入ります。

信徒の教育が不十分なため、そのような疑問が出てくるのでしょう。今回は、教会維持について皆さんと考えてみたいと思います。

何か質問がありましたら、どしどしお寄せ下さい。出来るだけ答えるようにします。

1. 教会維持費の使途

イエスは、弟子達を派遣するにあたり、何も持たないで福音を述べ伝えに行くように命じて、「働く者が、食べ物を受けるのは、当然だからである」（マタイ10章10）と言っておられます。

本来、司祭の生活費を含めて、自分達の集まりで教会を維持するのは、皆さん信徒達の務めです。しかし現実には、司祭の生活維持は勿論のこと、建物維持管理にさえも不十分な額であることは、皆さんもよくおわかりのことと思います。維持費、献金の10％は、カテドラティクムといって、司教区に納めています。教区全部の教会から集めたもので司教館の経費の一部になります。

残りは自分の教会のために使われています。祭儀費ーミサのホスチア、ぶどう酒、花代、聖書と典礼など。水道光熱費ー司祭館の電気水道代・燃料費で集めても足りない分の灯油代、その他布教教化のため、消耗備品のためなどに使われています。

自分達の教会を維持するために、私達の自覚が不足していることを痛感します。なぜ信徒の多くが、この事について無関心なのでしょうか。一つは、自分達の属する教会（土地建物）を信徒だけの力で作り上げなかったからではないかと思います。本来ならばそうすべきだったのに、そうできないために、ほとんどを他の援助に頼らざるを得なかった、しかも援助して下さった方々は、私達と同じように名もなく貧しい世界中のキリスト者だったことを、いつも心に留めていたかどうかです。

ある時、私は主任司祭としての務めから、教会維持について話しました。ところが、ある信徒は、こう私にたずねました。

「最近は、ローマ（バチカン）から援助はないのですか？」私は逆に尋ねました。

「そのお金は誰が出していると思いますか」

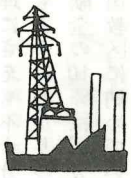
教皇様は、金の成る木を持っているわけでもないし、神様が金を与えて下さるわけでもないのです。

世界中の同信の徒の献金が、私達日本の教会を助け、支えてきたのです。（高田神父）

マンガ作者紹介ー筆者は聖ウルスラ会修道女・阿部中子さんです。仙台、奈良、沖縄各地で、小学校事務、小教区宣教活動等多彩な経験の後、現在一本杉本部修道院在住、マンガのネタさがしに余念ありません。

そういえば学校で職員会議中せっせとまじめにノートを取っていたと思いきや、口角あわで熱弁をふるっている先生の似顔を描いていたとか。そんな先生、どこかの学校にも、おられるのでは。

ミニ情報



＊「マザー・テレサとその世界」再び仙台へ

多くの人々の感動を呼びおこした映画「マザー・テレサとその世界」が、仙台YBU文化センターの主催で再び上映されます。

今回は「ベルギーのママと愛の養子たち」も同時上映され、いろいろな面から、愛とは何かを考えるきっかけとなるでしょう。

日時　3月19日(水)
　　午後2時、4時、6時。
場所　仙台市市民会館小ホール
前売券・六百円　当日券・八百円
主催　仙台YBU文化センター
　　（tel 61－五三四一）

後援　仙台市教育委員会・河北新報社
　　詳細はYBUにお問い合わせ下さい。

＊正義と平和
　　仙台協・フィリピン・研より

フィリピン問題研究会では、アジアを中心として、開発途上にある国々の現状を研究しながら、仙台教区の子どもから成人までの人びとの意識の向上を求めて、アピールしたいと望んでいます。

次に紹介するのは一九七七年十月コスタリカにおいて中南米諸国の代表者による会議で採択された書簡集の一部です。私達の生き方を変えるために役に立たないでしょうか。

第三世界から第一世界の皆さんへ！

●あなたの教会に世界的な問題の意義のうずをわきおこして下さい。

●世界中の飢えについて学び、祈って下さい。

●それぞれの地域の正義と平和協議会から、それらについて説明を受けて下さい。（詳しい事は元寺小路教会・フィリピン問題研究会へ）

●世界の飢えと貧困に心を留めて四旬節を過ごして下さい。

公告

最近、仙台教区内福島県須賀川市を所在地とする宗教法人「聖母の御国」の設立の動きがありますが、当該宗教法人は、私どもと何らの関係もありません。又当該宗教法人の設置、経営する「教会」ならびに「聖母の御国姉妹会」も聖会法上何らの関係もありません。

右誤解のないよう、公告します。

仙台司教　佐藤　千敬

読者のページ

ベコニアにビニールおおい春を待つ
ボストへの帰りに通る梅の下
風花やお告げの祈り高々と
バイブルの背文字輝き初日の出
寒風にめげず雀の声うれし
寒椿いけてマリアに祈りけり

富士　寒子

㊟本名　佐々木正三郎　亘理教会所属
名取県立病院で長期療養生活を送っています。

秋冬雑唱　鈴木　双穂

黄落や修女の母の一人住む
（フィリッポ只野氏授賞）
イエズスに託せしほまれ文化の日
曼珠沙華輪禍のクララ里和の墓
耶蘇墓地の無縁の一基露けしや
深雪来て元朝のミサ授かりし
ちゃんちゃんこ似合う異邦の神父さま
罪償ふごとく通路の氷割る

㊟本名　鈴木富多男　水沢教会所属

【編集後記】

◎四旬節に入りました。洗礼志願者と共に、信者の共同体を新たにする回心の時でもあります。主が、清めと照らしを豊かにお与え下さいますように祈ります。

仙台司教区事務所だより第29号
昭和五十五年三月一日発行
発行所　仙台司教区事務所
〒980 仙台市本町一丁目2番12号
TEL 0222 22 7371